



歯医者さんが教える 歯と口腔の健康管理

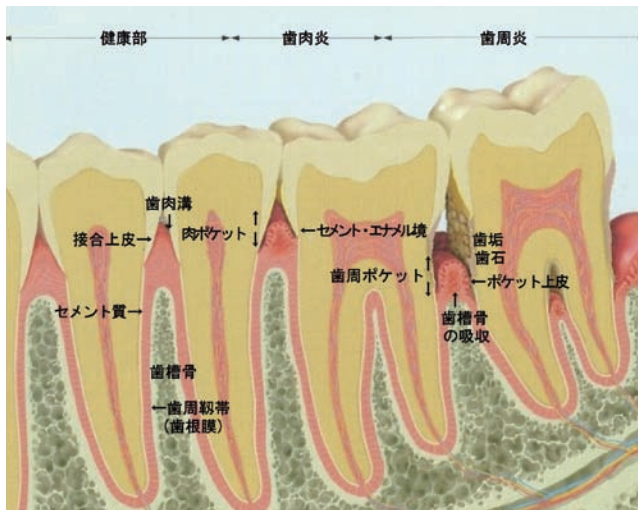
〔第13回〕 歯周病と全身の関わりについて

監修／歯学博士 鹿島 健司

歯周病は、歯肉・歯根膜・セメント質および歯槽骨で構成される歯周組織が破壊される炎症性疾患です。

歯肉炎と歯周炎の総称が歯周病で、炎症が歯肉のみに現れるのが歯肉炎、歯肉・歯根膜・セメント質まで及ぶのが歯周炎です。歯科疾患実態調査によって、日本人の約70%に何らかの歯周病の症状が認められ、特に成人では、ほとんどの人が軽度の歯肉炎から重症の歯周炎に至るまで、様々な病態の歯周病に罹患していることが分かっています。

歯周病は歯と歯肉の境目に付着するプラーク細菌やその代謝産物と生体細胞との相互作用の結果、炎症反応や免疫反応を経て、歯肉の炎症や歯槽骨の吸収などの臨床症状を発現しながら進行します。その過程に環境因子や遺伝因子が加わり、多様な病態を示しながら重症化します。このように歯周病のリスクファクターは、歯周ポケット内に存在する歯周病原細菌と遺伝子により支配されている体質、そして、喫煙、ストレスならびに食生活に代表される生活習慣の三要素からなっています。



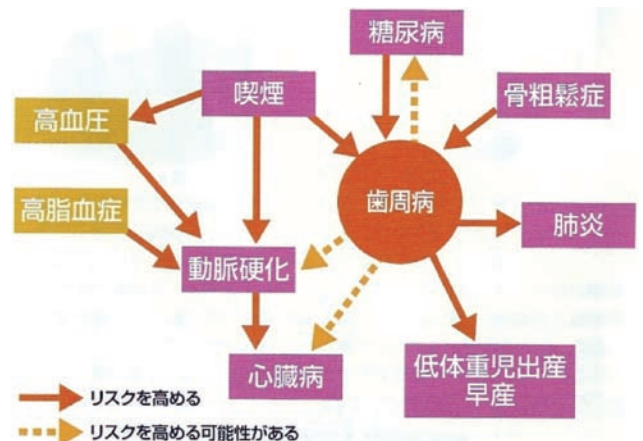
歯の断面図と歯周病

高血圧、高脂血症、高血糖、肥満等は、各々の程度は軽くても、相互に絡み合って糖尿病や心臓病といった生活習慣病のリスクを高めることが解っています。そして昨今、歯周病が様々な全身疾患と関連していることが明らかにされ、糖尿病・心臓病・呼吸器疾患といった全身疾患のリスクファクターであり、さらに、歯周病が早産・低体重児出産に深く関わっていることも報告されています。

歯周病の進行と有病率



特に、糖尿病とは密接な関係があることが解明されています。体内に侵入した細菌やウイルスと戦う免疫細胞マクロファージが、歯茎で歯周病菌と壮絶な戦いを繰り広げ、この時にマクロファージが仲間を呼ぶために出す物質がインスリンの働きを阻害してしまい、その結果、糖尿病が悪化すると考えられています。糖尿病は歯周病を確実に悪化させ、逆に、適切な歯周病治療によって、HbA1c(ヘモグロビン・エイワンシー)の値が改善することも解ってきました。



さらに、歯周病菌が血管内に入ると血小板の中に入り込んで血管内を移動し、血小板や赤血球を集めて塊にしてしまい(血栓)、心筋梗塞や脳梗塞のリスクを高めるという研究報告も相次いでいます。また、食べ物を誤って気道に入れてしまい、歯周病菌など口の中の細菌が肺や気管支に感染するケース(誤嚥性肺炎)も、特に高齢者の方では注意しなければなりません。

監修／鹿島健司(歯学博士)。1958年1月3日生。かしま歯科医院院長。日本先進インプラント医療学会評議員・指導医・専門医